

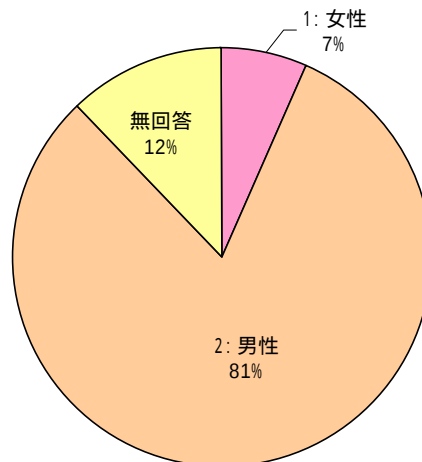
1. 伊勢湾再生研究シンポジウムにおけるアンケート結果

1.1 アンケート提出者の属性

(1) 性別

男性に偏りが見られる。

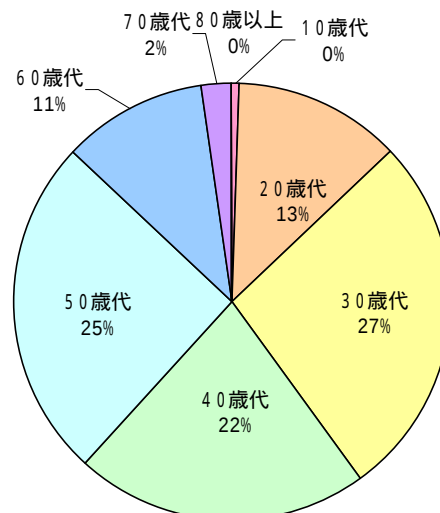
	人数
1: 女性	16
2: 男性	192
無回答	29
合計	237



(2) 年齢

10～70 歳代の幅広い年代の方が参加した。

	人数
10 歳代	1
20 歳代	30
30 歳代	64
40 歳代	51
50 歳代	60
60 歳代	26
70 歳代	5
80 歳以上	0
合計	237

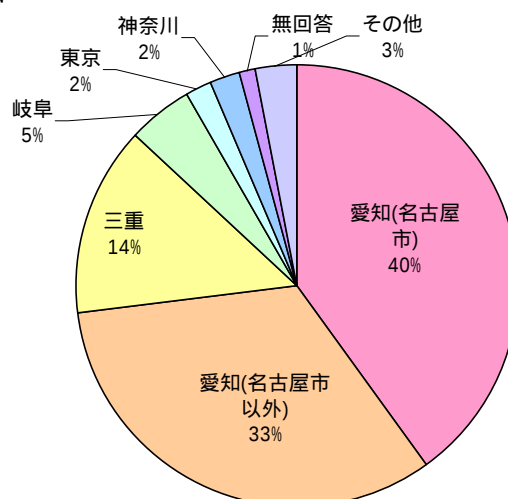


(3) お住まい

名古屋市の開催であり、愛知県(特に名古屋市)からの参加者が多い。

今後は、他の地区での開催も考えられる

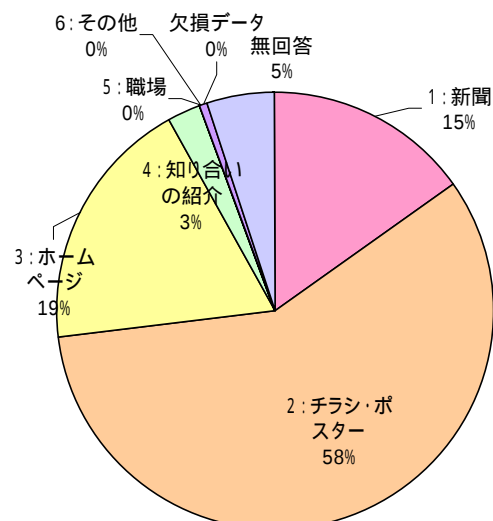
県	人数
愛知(名古屋市)	95
愛知(名古屋市以外)	78
三重	33
岐阜	11
東京	5
神奈川	5
無回答	3
その他	7
合計	237



(4) シンポジウム開催を何で知ったか

チラシ・ポスターにより開催を知った方が最も多い。次いで、ホームページ、新聞が多い。

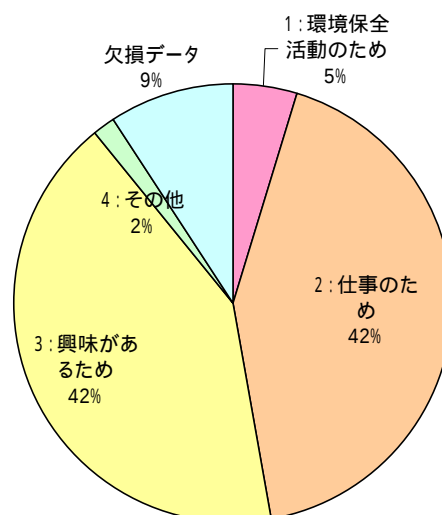
	人数
1：新聞	36
2：チラシ・ポスター	137
3：ホームページ	45
4：知り合いの紹介	6
5：職場	0
6：その他	0
欠損データ	1
無回答	12
合計	237



(5) 参加動機

「仕事のため」「興味があるため」という意見が多い。

	人数
1：環境保全活動のため	11
2：仕事のため	101
3：興味があるため	99
4：その他	4
欠損データ	22
合計	237

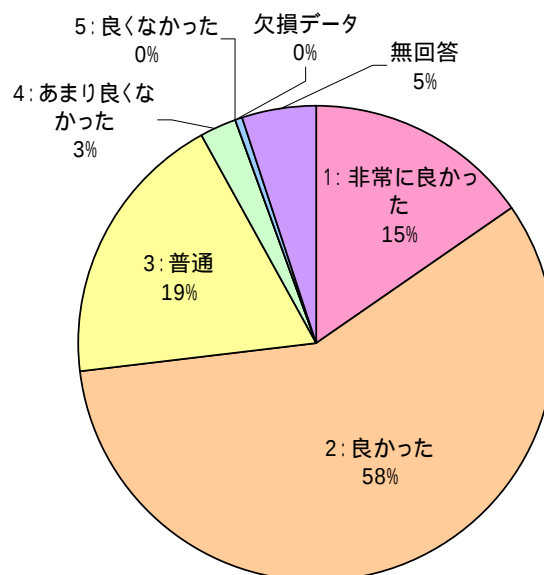


1.2 アンケート回答

(1) 今回の伊勢湾再生研究シンポジウムは、いかがでしたか？（数字に○を付けてください）
7割を超える方に満足いただける内容であった。

一方、非常に多くの内容を盛り込んだため、研究発表の時間が短かったことや、質疑の時間を取れなかったこと、4時間と長時間であったことなどが反省点として挙げられる。

	人数
1：非常に良かった	36
2：良かった	137
3：普通	45
4：あまり良くなかった	6
5：良くなかった	0
欠損データ	1
無回答	12
合計	237



主な意見

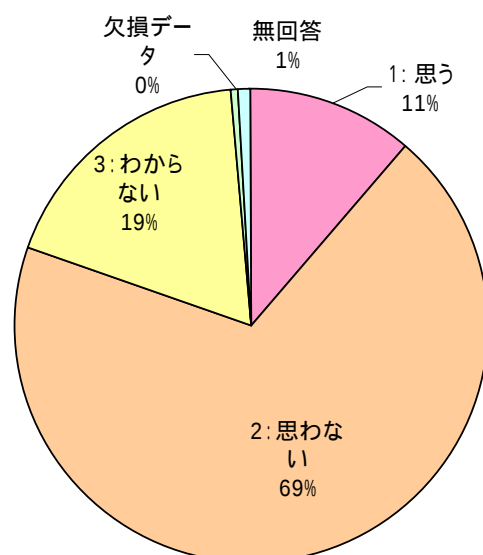
良かった点	・ 森、川、海それぞれの現状と課題がわかった ・ 森、川、海、市民のそれぞれの立場での研究・取組みが聞けた ・ 陸・海の連携で対応していくきっかけになった ・ パネルディスカッションは大変面白かった ・ 各分野の率直な意見（本音）が聞けた ・ 勉強になりました ・ 1人あたりの講演時間が短くて、たくさんの人の話が聞けた
良くなかった点	・ 研究発表の時間が短かった ・ 多少専門的な単語が使われ一般人には理解できない点もあった ・ パネルディスカッションの内容(結論)がまとまらなかった ・ 個々の研究発表に対する質疑応答がなかった ・ 4時間と時間が長かった

(2) 今の伊勢湾の現状をどう思いますか？（あてはまる項目の数字に○をつけてください。）

伊勢湾の現状をきれいと思う人は約 10%に過ぎず、約 70%の人はきれいではないと思っている。一方で、伊勢湾は豊かであると思う人、伊勢湾で遊びたいと思う人は、約 60%に達しており、漁業等による伊勢湾の恩恵を感じている人、マリンレジャーや身近な海として伊勢湾に関心を持っている人が比較的多いことが確認できる。

1) 伊勢湾をきれいだと（1．思う、2．思わない、3．わからない）

伊勢湾をきれいだと	人数
1：思う	27
2：思わない	163
3：わからない	44
欠損データ	1
無回答	2
合計	237

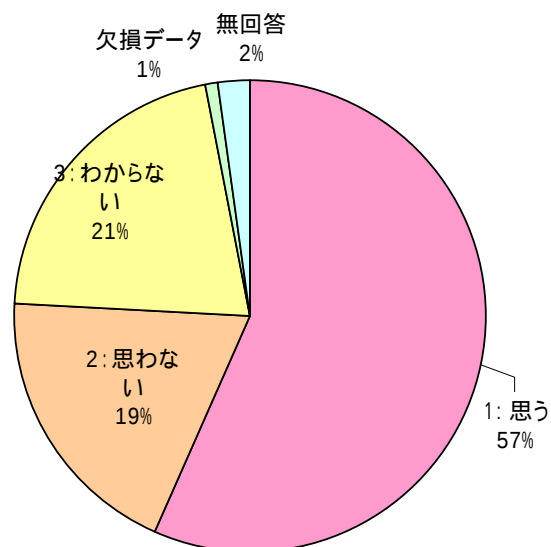


主な理由

思う	・ 以前に比べてきれい ・ 東京湾や大阪湾に比べてきれい ・ 海水がきれい ・ 伊勢志摩の景観がきれい ・ 港湾部以外はきれい ・ どぶのように汚くはない
思わない	・ 湾奥部の水質が悪い ・ 透明度がない、海水がにごっている、茶色い ・ ゴミが多い、油が浮いている ・ ヘドロが堆積している ・ 赤潮が発生している ・ 貧酸素水塊が発生している ・ 泳げない
わからない	・ きれいな場所ときれいでない場所がある ・ 見たことがない、行ったことがない ・ 情報がなく良く分からない ・ きれいとは？

2) 伊勢湾を豊かだと(1 . 思う、 2 . 思わない、 3 . わからない)

伊勢湾を豊かだと	人数
1: 思う	134
2: 思わない	46
3: わからない	50
欠損データ	2
無回答	5
合計	237

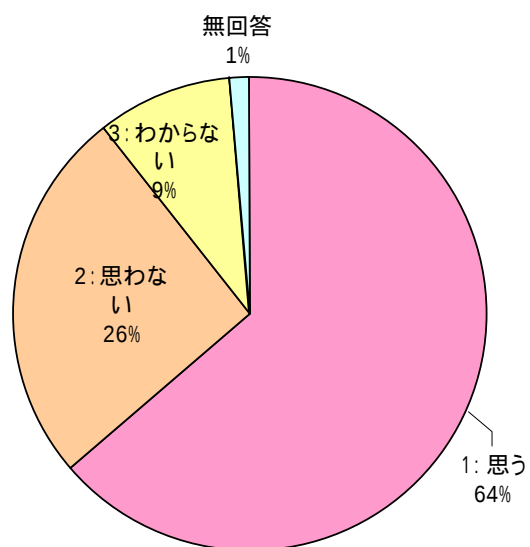


主な理由

思う	・ 魚介類が多く、漁獲量が多い ・ 生物が多様である ・ 伊勢湾の恩恵を受けている
思わない	・ 漁獲量の減少している ・ 水質が悪い ・ 以前に比較して悪化している ・ 貧酸素化している
わからない	・ 豊かさを示すデータがない、わからない ・ 行ったことがない ・ 豊かとは？

3) 伊勢湾で遊びたいと(1 . 思う、 2 . 思わない、 3 . わからない)

伊勢湾で遊びたいと	人数
1: 思う	151
2: 思わない	61
3: わからない	22
欠損データ	0
無回答	3
合計	237



主な理由

思う	・ 釣り、潮干狩り、海水浴、プレジャーボートなどのマリンレジャーが好き、充実している ・ 地元である ・ 身近である ・ 眺めが良い ・ 解放感がある ・ 海が好きである ・ 関心がある ・ まだ、行ったことがない
思わない	・ 汚れている ・ ゴミが多い ・ 海が遠い ・ 工場などが多く、人工的な海岸である
わからない	・ 行ったことがない

4) 年齢別の分析

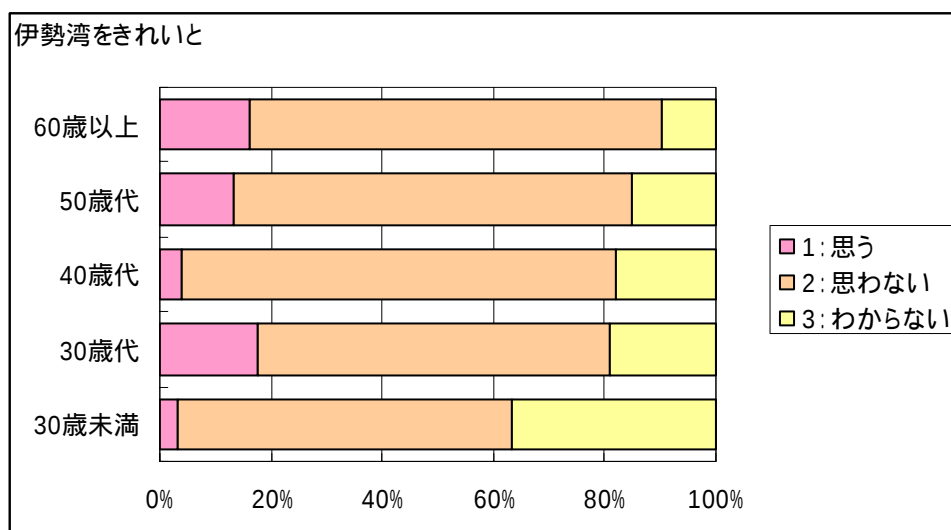
伊勢湾の現状をどのように思っているのか、回答者の年齢別で見てみる。

「豊かか」という質問に対しては、60歳を境に豊かと思う人と、思わない人の数が逆手インしている。

「きれい」、「遊びたい」といった質問に対しては、年齢による回答内容の差はあまり見られない。

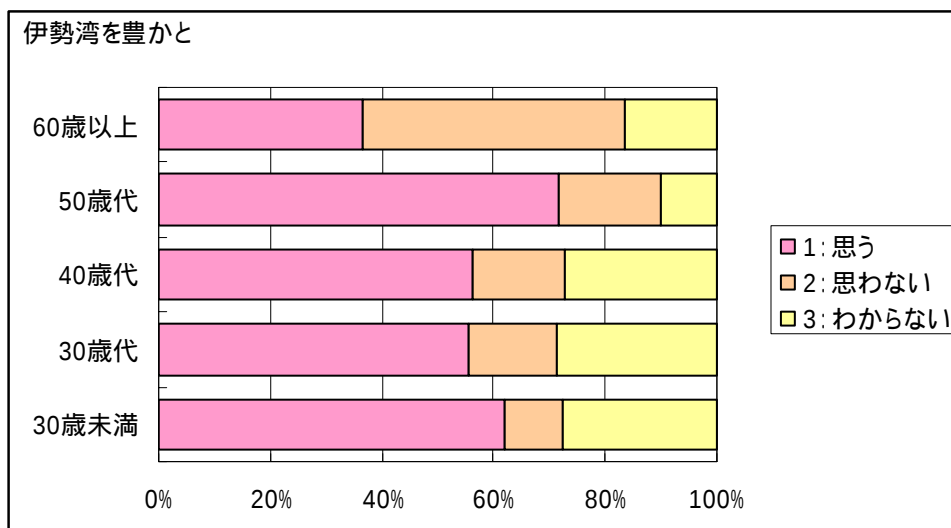
伊勢湾をきれいと思いますか？

- ・ 30歳未満、40歳代できれいと思うという回答が少ない。
- ・ また、30歳未満では、わからないという回答が40%と多い。



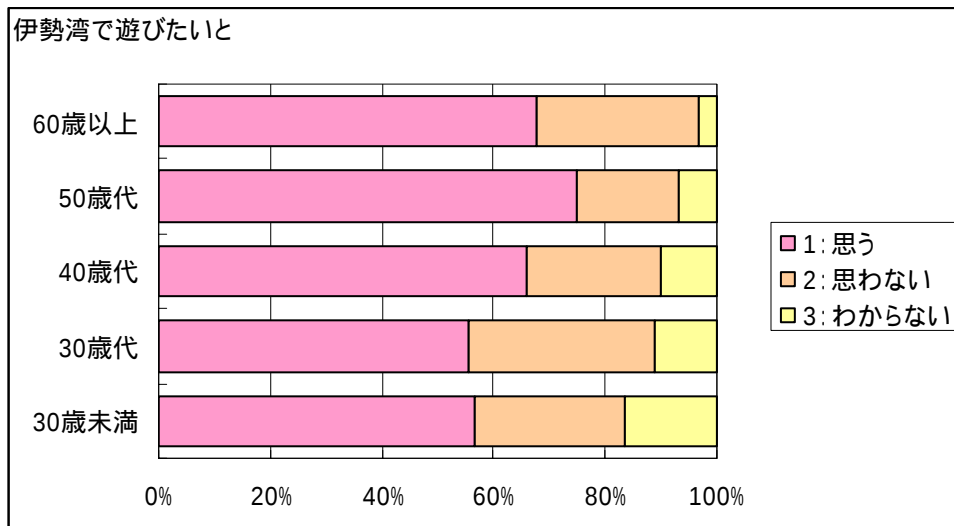
伊勢湾を豊かと思いますか？

- ・ 60歳以上では、豊かでないと思う人が約50%を占め、豊かと思う人よりも多い。一方、50歳代以下では、豊かであると思う人が60%前後を占め、豊かでないと思う人よりも多い。60歳を境に伊勢湾の豊かさに対する認識の違いが見られる。



伊勢湾で遊びたいと思いますか？

- ・ 30 歳代以下では、遊びたいと思う人が 60%弱となっている。年齢が高いほど、遊びたいと思う人がやや多い。



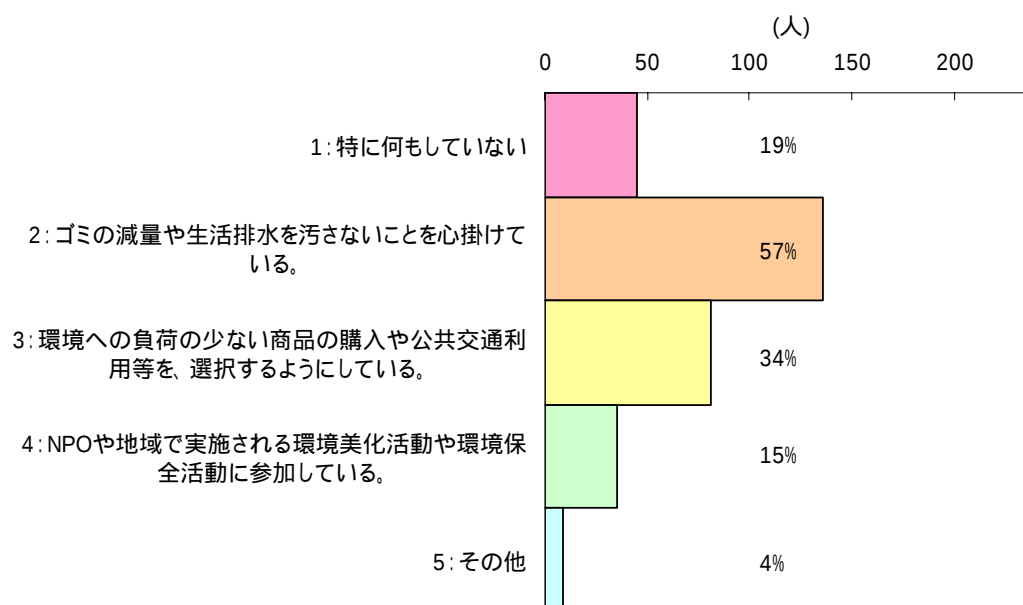
(3) あなたは普段、環境保全のためにどのようなことを実行していますか？

約 8 割の人は、環境保全のために何かを実行している。

広く周知されている「ゴミの減量」「生活排水を汚さない」といったことについて心掛けている人が多い。

	人数	比率
1：特に何もしていない	45	19%
2：ゴミの減量や生活排水を汚さないことを心掛けている。	136	57%
3：環境への負荷の少ない商品の購入や公共交通利用等を、選択するようにしている。	81	34%
4：NPOや地域で実施される環境美化活動や環境保全活動に参加している。	35	15%
5：その他	9	4%
合計	306	

回答者数： 237 人

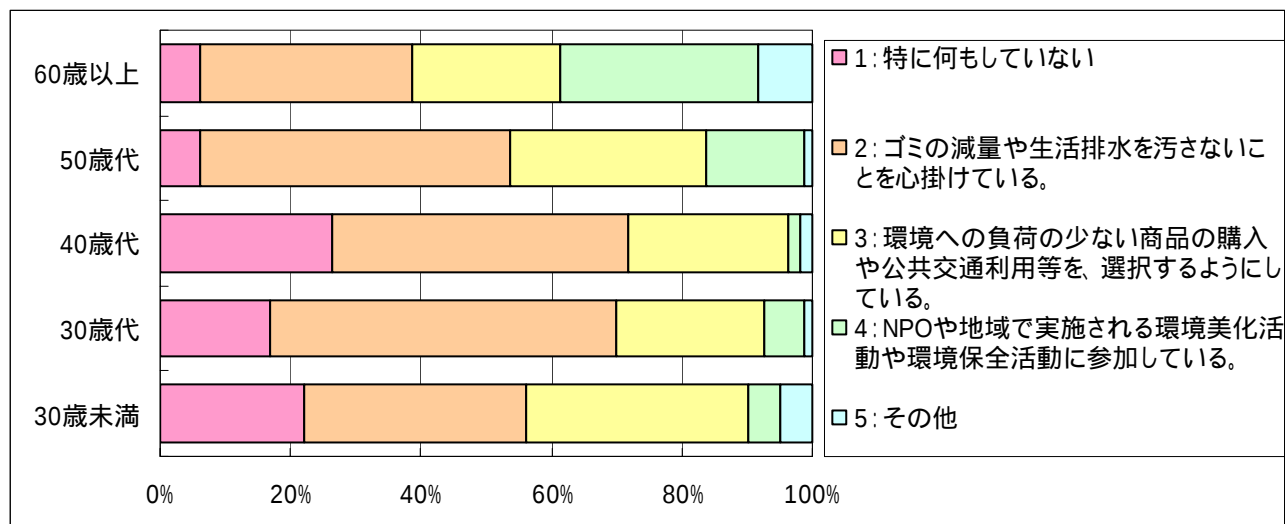


5：その他の主な回答

- ・ NPO の世話人をしている
- ・ 技術士として具体的な調査研究提言を行っている
- ・ コンサルタントとして貢献している
- ・ 愛知大学の講座で学んでいる
- ・ 環境の調査検討を行っている
- ・ 水を汚さないよう働きかけている
- ・ 森林ボランティアに参加している
- ・ 分別を徹底している

1) 年齢別の回答比較

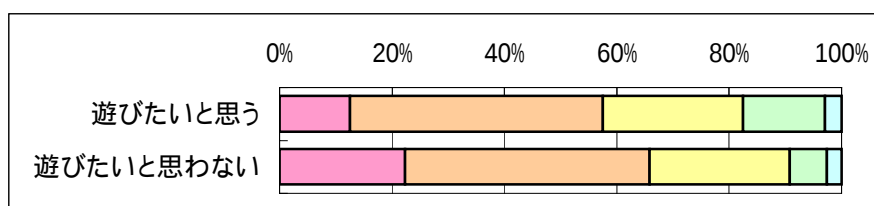
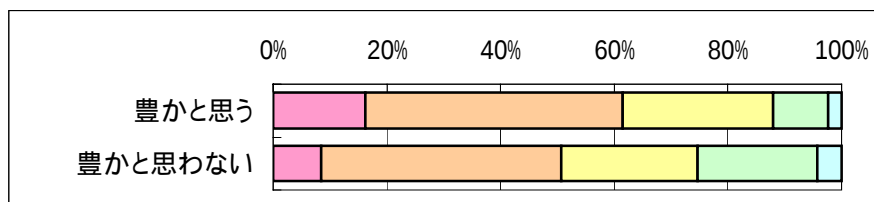
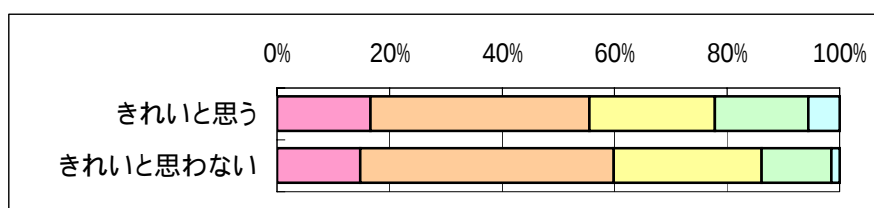
- ・ 50 歳以上では、何もしていないという回答が少ない。
- ・ 60 歳以上では、他の区分に比較して、NPO による環境保全活動等に参加している人が多い。
- ・ 30 歳未満では、環境負荷の少ない商品購入や公共交通機関の利用を意識している人が、比較的多い。



2) 伊勢湾の現状認識（Q2 に対する回答）の違いによる回答比較

- ・ 伊勢湾をきれいと思っている人と、思わない人での回答の違いはあまりない。若干、きれいと思っている人のほうが、「1.特に何もしていない」との回答が多い。
- ・ 伊勢湾を豊かと思っている人と、思わない人では、豊かと思っている人のほうが、「1.特に何もしていない」との回答が多い。また、豊かと思っていない人のほうが、「4.NPO 等による環境保全活動等」への参加が多い。
- ・ 伊勢湾で遊びたいと思っている人と、思わない人では、遊びたいと思わない人のほうが、「1.特に何もしていない」との回答が多い。また、遊びたいと思っている人のほうが、「4.NPO 等による環境保全活動等」への参加が多い。

- 1: 特に何もしていない
 ■ 2: ゴミの減量や生活排水を汚さないことを心掛けている。
 ■ 3: 環境への負荷の少ない商品の購入や公共交通利用等を、選択するようにしている。
 ■ 4: NPOや地域で実施される環境美化活動や環境保全活動に参加している。
 ■ 5: その他

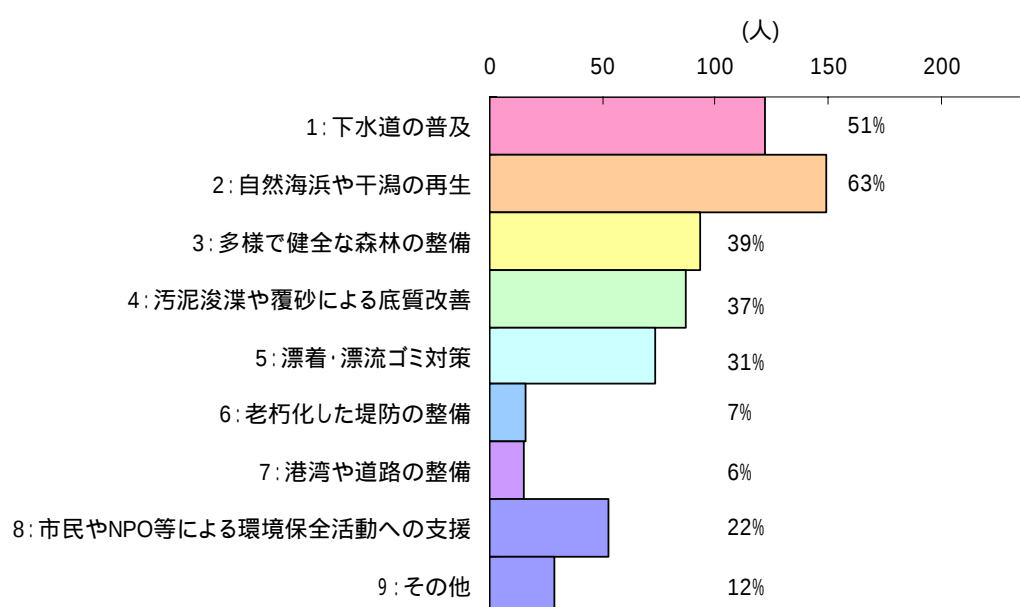


(4) 伊勢湾再生のために、行政機関にどのようなことを期待しますか？

「自然海浜や干潟の再生」「下水道の普及」といった項目への要望が高い。

年齢	人数	比率
1：下水道の普及	122	51%
2：自然海浜や干潟の再生	149	63%
3：多様で健全な森林の整備	93	39%
4：汚泥浚渫や覆砂による底質改善	87	37%
5：漂着・漂流ゴミ対策	73	31%
6：老朽化した堤防の整備	16	7%
7：港湾や道路の整備	15	6%
8：市民やNPO等による環境保全活動への支援	53	22%
9：その他	29	12%
合計	637	

回答者数： 237 人

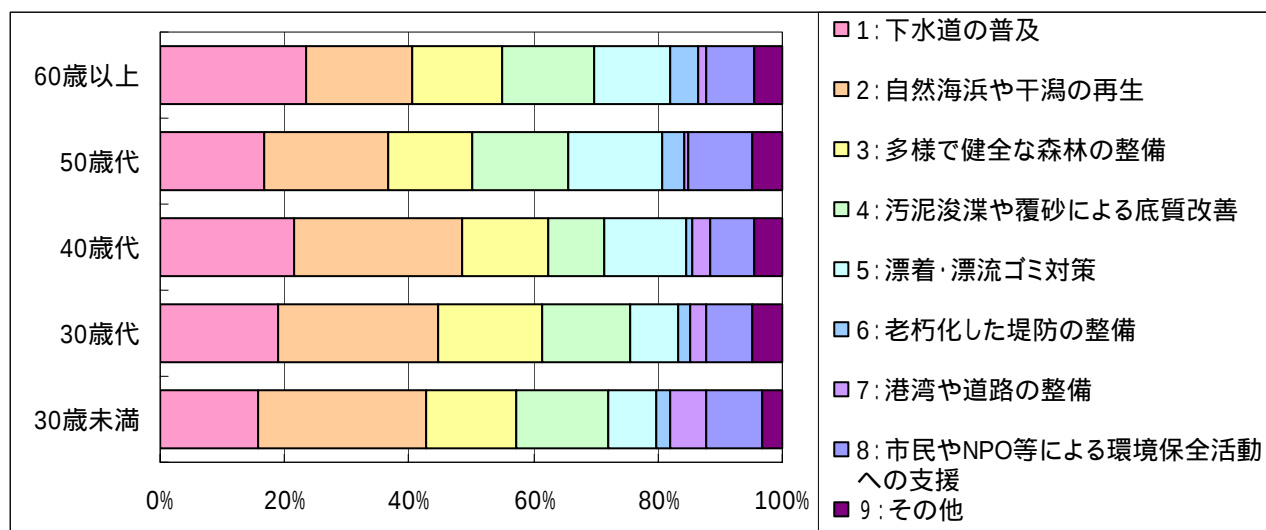


9：その他の主な回答

- ・ 高度処理の推進
- ・ 浄化槽の普及・管理
- ・ 水質・底質の調査・評価
- ・ 汚濁発生源対策
- ・ 民間技術、民間活力の活用
- ・ 住民等への啓発活動
- ・ 藻場の再生、生物資源回復への取り組み
- ・ 残された自然環境の確保、開発抑制
- ・ 根本的な生活用品産業の指導改善
- ・ 森・河川・都市・農業・漁業・企業の相互協力
- ・ 行動、対話
- ・ 漁業、観光の振興、海のスポーツの振興（ヨットなど）、海つりの規制（遊魚）
- ・ メカニズムの解明

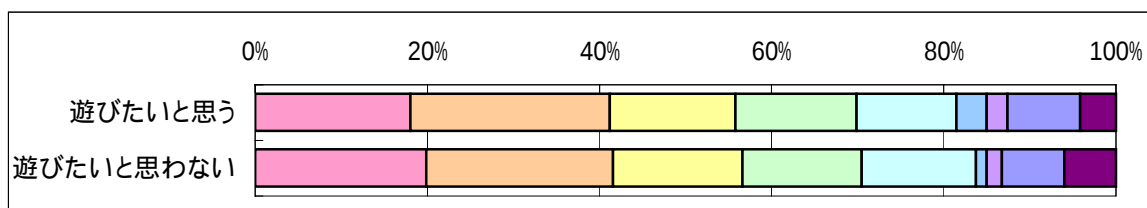
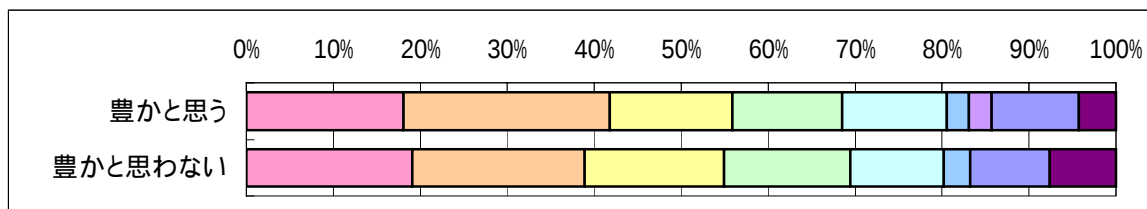
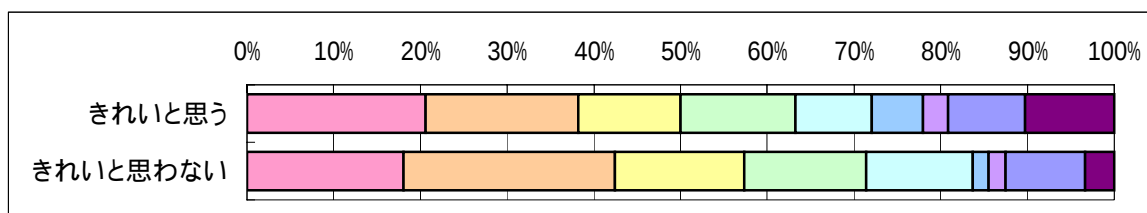
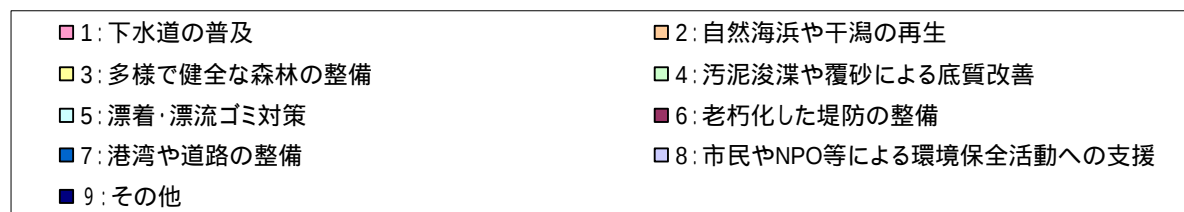
1) 年齢別の回答比較

- ・ 行政機関に期待する施策には、年齢別の差はあまり見られない。



2) 伊勢湾の現状認識（Q2 に対する回答）の違いによる回答比較

- ・ 行政機関に期待する施策には、伊勢湾の現状認識（Q2 に対する回答）の違いによる差はあまり見られない。

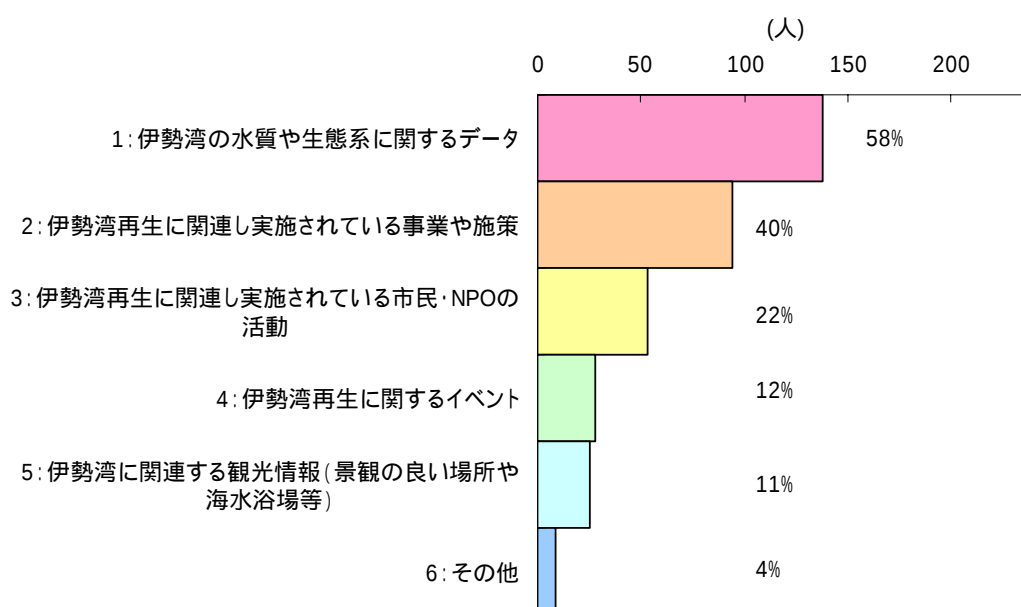


(5) 伊勢湾の再生に関して、どのような情報に興味がありますか？

「伊勢湾の水質や生態系に関するデータ」「伊勢湾に関連し実施されている事業や施策」といった情報への関心が高い。

	人数	比率
1：伊勢湾の水質や生態系に関するデータ	138	58%
2：伊勢湾再生に関連し実施されている事業や施策	94	40%
3：伊勢湾再生に関連し実施されている市民・NPOの活動	53	22%
4：伊勢湾再生に関するイベント	28	12%
5：伊勢湾に関連する観光情報（景観の良い場所や海水浴場等）	25	11%
6：その他	9	4%
合計	347	

回答者数： 237 人

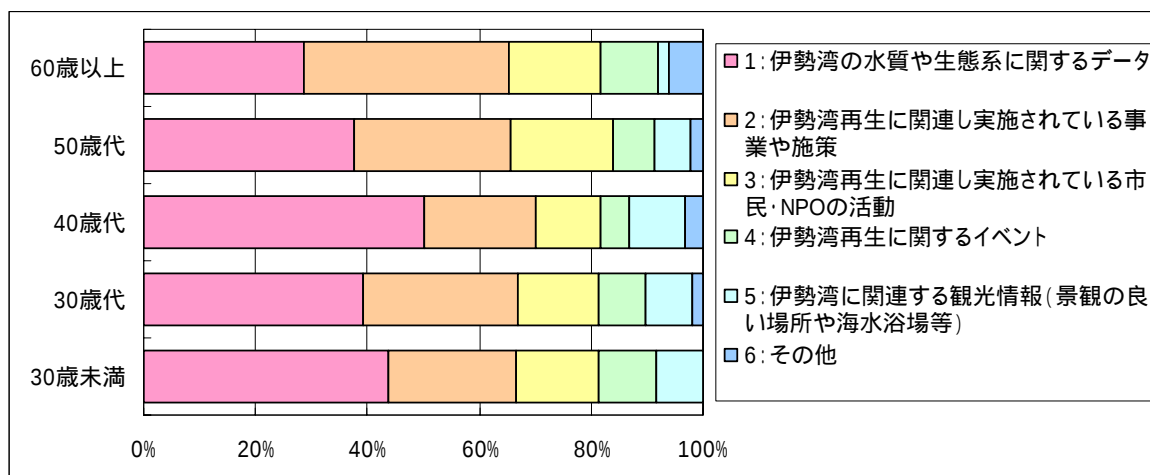


6：その他の主な回答

- ・ 国の方向性の情報開示
- ・ 漁業、水産資源の状況。油化学物質による汚染の情報
- ・ 全ての情報が一括で見られるサイト
- ・ 木曾川源流・上流の荒廃森林見学ツアーなどの情報
- ・ 計画段階から市民参加を実施して、市民と同視線で施策を考えるとよい。
- ・ どんな海にしたいのか数値的に示してもらいたい。
- ・ 特にS i（ケイ素）とN（窒素）、青潮の発生場所と経時的広がり（三番瀬ではこのデータがある）
- ・ 汚濁機構の解明に係る研究

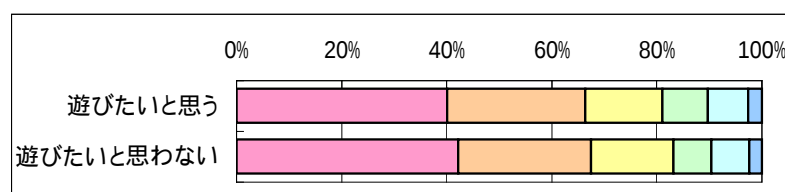
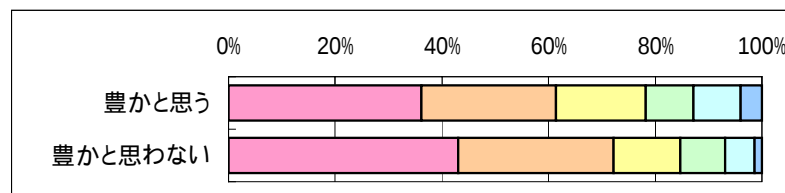
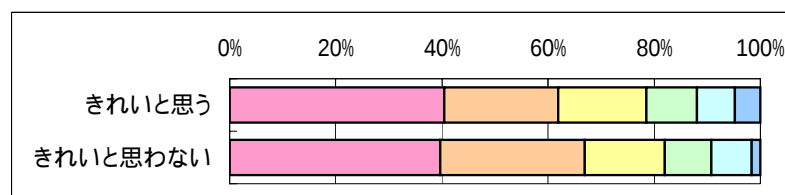
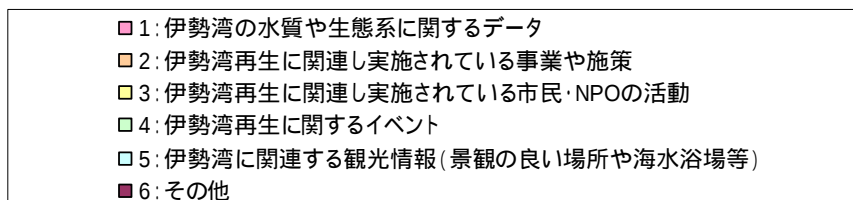
1) 年齢別の回答比較

- ・ 60 歳以上では、「2.伊勢湾再生に関連し実施されている事業や施策」への関心が最も高い。60 歳未満では、「伊勢湾の水質や生態系に関するデータ」への関心が最も高い。
- ・ イベント情報への興味は、30 歳以下、30 歳代、60 歳以上で比較的高く、観光情報への興味は、40 歳代以下で比較的高い。



2) 伊勢湾の現状認識 (Q2 に対する回答) の違いによる回答比較

- ・ 伊勢湾再生に関して興味のある情報の種類には、伊勢湾の現状認識 (Q2 に対する回答) の違いによる差はあまり見られない。



(6) 今回のシンポジウムを聞いて、今後に活かしたいと感じたことがありましたら、御記入下さい。

- ・ 伊勢湾の再生に関して、もっと一般の市民に知ってもらえるような対策を考えていきたい。
- ・ 畑の違う人々がディスカッションで意志統一を図る必要性を感じた。
- ・ それぞれの立場で「目指すもの」と、そのために「行うこと」。そして、他の人、立場の人や市民に「して欲しいこと」を、いかに示すかの重要性がわかった。そのためには、今回のような場が大変重要であると思う。
- ・ 解決が困難な課題が多いが、小さなことを積み上げていく活動を行いたい。
- ・ 知識として得られたことを所属するNPOで活かしたいと思う
- ・ 伊勢湾の現状をしっかり受けとめ、研究に取り組んでいきたいと思う。
- ・ 自分の生活をもう一度みなおして、環境負荷となるものはなるべく出さないように気をつけたい。海から山まで一体となり、健康的な環境へもっていけたらと思う。
- ・ 汚濁負加の低減
- ・ 伊勢湾再生に向け産・官・学・NPOの連携の重要性
- ・ 再生のための行動をすぐにおこすこと。行政に課せられた事実
- ・ 行政もこのような三河湾にしたいという目標を示してほしい。この点不足していると感じた。
- ・ 環境保全技術の情報提供、例えば「砂」の機能など、農特に「水田」の視点が欠けていることがわかったので、その点の情報提供も大切だと思った。森と川と海をつなぐ物資の一つが「ケイ酸」と言われはじめていることも今回はまだ触れられなかった。
- ・ 流域全体としての調査・研究とその後の総合的な取り組み
- ・ 現場に生活されている人を第一に考えること。

1.3 総括

今回のシンポジウムは、7割を超える方に満足いただける内容であった。

特に、研究発表やパネルディスカッションにおいて、森・川・海・人の多岐に渡る分野の研究や取り組みを聞いたことについては、多くの方に評価していただけるものであった。

今後も、このようなシンポジウムを継続し、森・川・海それぞれ立場で意見交換を行い、伊勢湾の再生に向けた活動がより広がるようにしていくことが重要と考えられる。

一方、今後のシンポジウム開催については、以下の事項への配慮が必要と考えられる。

- ・ 一般の人々への周知が必要である。
- ・ 名古屋市だけでなく、三重県や岐阜県での開催も考えられる。
- ・ 内容については、今回のような研究発表を主としたものだけでなく、もう少し一般向けのものも開催する必要がある。(パネルディスカッションを中心とするなど)

また、アンケート集計にあたってキーワードとして、次のような言葉が挙がってきている。今後のシンポジウム開催の方向性のひとつと考えられる。

- ・ 森・川・海の連携と対話
- ・ 産・官・学・民の連携と対話
- ・ 今できること、今すぐやるべきこと
- ・ 森・川・海をつなぐ新たな視点(ケイ酸など)